

# 中丸の 弁天さん

昭和六十一年十月五日号

田子浦地区の中丸には、弁天さんをまつた小さな社やしろがあります。弁天さんは漁師りょうしの多かった昔、大切な海の守り神でした。

今回は中丸の弁天さんのお話です。

## 漁師が大漁を願う

昔、中丸には海に出て魚をとる漁師が大勢住んでいました。

ある年、魚がほんの少ししかとれなくなり、人々は暮らしに困ってしまいました。困った漁師たちは、

なんとかして、魚がたくさんとれる方法はないかな」「そうだ、海の神様にお願ねがいしよう」

「それがいい、そうしよう」

と相談して、中丸の小さな丘に弁天さんをまつりました。漁師たちは毎日お供えものをして、一生懸命お祈りしました。

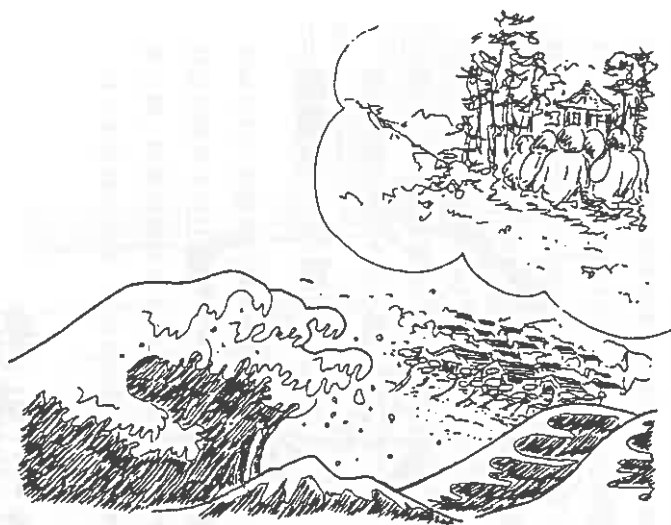
幾日かたつて、たくさん魚がとれるようになり、村の人々は大喜びしました。

「弁天さんのおかげだ」

と、お礼のお参りもしました。

## 静まった大波

あるとき、ものすごい台風が来て、大波が家のすぐ近くまで押し寄せて来ました。村の人々は、夢中で弁天さんの丘へ逃げました。



真つ暗な海は、まるで魔物が暴れ狂っているようで、人々は恐ろしさに震えていました。そのとき、「弁天さん、助けてください」と、だれかが言いました。みんなも声を合わせてお願いしました。

すると急に、荒れ狂っていた大波は静まり、みんな助かりました。

## 不幸なことがあるとお参り

貫名仁治さん（中丸）

弁天さんの近くに住む貫名仁治さんは「弁天さんは江戸時代からまつられるようになったと聞いています。今じゃこの辺も漁師が少なくなつて、何か不幸なことがあると、お参りする人が多いね」と語ってくれました。